ESG について

Q．最近、ESG 投資や ESG 経営という言葉を新聞等でよく目にしますが、ESG の概念について教えてください。また、ESG 投資や ESG 経営が中小企業の経営に及ぼす影響について教えてください。

Ａ．■ESG とは

ESG とは、環境（Environment）、社会（Social）、ガバナンス（Governance）の頭文字を取って作られた言葉です。気候変動問題や人権問題などの世界的な社会課題への対応が喫緊の問題と認識され、国連が 2006 年に機関投資家に対し ESG を投資プロセスに組み入れる PRI(責任投資原則)を提唱したことをきっかけに広まった概念です。

■ガバナンスが求められる背景

環境や社会の課題に対して企業がその解決のための取り組みをすることは理解できますが、なぜガバナンスが求められているのかについて疑問をもつ方もいらっしゃるかと思います。ESG の始まりは先ほど述べたように機関投資家向けに提唱された概念です。資金の出し手である機関投資家にとって投資先のガバナンス、特に経営者を律するコーポレート・ガバナンスが適切に整備・運用されているかどうか知ることは、資金が適切に運用されるのかを判断する上で重要な指標となるからです。

■日本での広がり

日本では GPIF(年金積立金管理運用独立行政法人)が 2015 年に PRI に署名し ESG を考慮して投資を行うことを基本方針としたことで認識が広まりました。年金積立金の運用は長期間に及ぶため、長期的な視点での安定的な収益の獲得が必要となります。資本市場が持続的・安定的に成長するためには、環境問題や社会問題の影響から逃れることはできないことから、GPIF は ESG を考慮した PRI に署名しました。なお、GPIF は運用資金が約 190 兆円ある世界最大規模の機関投資家です。

■CSR との違い

日本企業の多くはかつて CSR（企業の社会的責任）活動が盛んでした。社会的な課題に対し企業が社会の一員としてコストを負担して解決していくものです。しかし、CSR は景気後退期のコストカットにより活動が停滞するなど、持続性に問題がありました。

他方、ESG は社会的な課題解決を企業収益（コスト削減を含む）に結び付けることをより意識した考えとなります。例えば近年の最大の課題である地球温暖化への対応は、世界中で多発している豪雨災害による工場被害やサプライチェーンの混乱など企業活動に目に見える影響を及ぼしています。そのため、地球温暖化の原因といわれる CO2 排出量の削減に取り組むことは、豪雨災害などの影響を低減し結果として企業収益の向上に繋がることになります。

■ESG への中小企業の対応

資金の供給側である機関投資家は今後 ESG 投資方針を益々推進してくるものと考えられます。機関投資家には銀行なども含まれるため、現在は株式投資がメインですが、今後は融資などにも影響を及ぼすことが予想されます。このため、中小企業においても ESG を意識した行動、すなわち ESG 経営が求められると考えられます。

また、ESG の分野は大企業であっても現時点ではすべての解決策を持っているわけではなく、試行錯誤の状況です。このことは中小企業においても課題解決策を事業化できるチャンスがあるとも言えます。ESG の課題に対し確立・普及した解決策を導入するのではなく、課題解決策を提供しビジネスチャンスとしていくベンチャースピリットや、有望な対策を開発した企業と早期に業務提携できるような情報収集力と目利き力が必要になってくるものと考えます。

（あがたグローバル税理士法人
公認会計士・公認不正検査士　鮎澤英之）